

# 千葉 あいご

Vol.  
79

## Index

- ①～② 県知的障害者福祉協会 人材確保委員会の取り組みについて
- ③ つながる相談員～相談支援部会オンライン研修会の報告～
- ③ 第48回「手をつなぐ作品展」開催報告
- ④ 新事業所紹介
- ⑤ わが施設の自慢・アピールポイント⑧
- ⑥ 千葉知協トピックス
- ⑥ 事務局だより・編集後記

### 第79号 (2021年12月号)

発行日：2021年12月20日／発行者：里見吉英／編集者：畠山正昭・菅谷大輔・秋山直樹

発行所：千葉県知的障害者福祉協会

【本部】 千葉市中央区中央3-15-6 山長ビル4F TEL 043-224-5721 HP <http://www.chibachiteki.com/>

【事務局】 船橋市金堀町499-1 大久保学園内 TEL 047-457-2462

## 県知的障害者福祉協会 人材確保委員会の取り組みについて

### 福祉の裾野を広げるために

人材確保委員会が目指していることは、その名のとおり、これからの社会において福祉を担う人材を確保していくことです。ただ、私達は、この「人材確保」という言葉を単純に目先の採用活動という枠組みだけで捉えずに、もっと視野を広げて活動していくことが、結果的に未来の有望な人材の確保へと繋がっていくと考えています。大切なことは、これからの福祉業界を目指そうとしている学生達の3年先まで見据えた採用活動。そこに繋げるための取り組みをいくつか紹介させていただきます。

### ①「福祉ライブカフェ」学生プロジェクト

千葉県知的障害者福祉協会会員施設による合同就職説明会を開催しています。学生プロジェクトは、この福祉ライブカフェを開催するにあたって、「学生に福祉の魅力伝えるためのイベントなのに、大人達だけで話し合っているのも限界があるのではないか。学生にも協力してもらって、学生達自身が参加したいと思えるものを創ることができないか。」という想いに端を発しています。

まず、このプロジェクトでは、学生達に当委員会の下部組織となる学生中心の『クリエイティブチーム』に所属してもらいます。就職イベントの開催や障害者福祉についての魅力を、福祉を学ぶ学生へ伝える為の活動に、その企画から運営まで携わってもらうことで、学生へキャリア教育の機会を提供するものになっています。また、就職活動という視点から言えば、主

催者側に一方的に作り上げられた就職活動ではなく、学生自身が学生の為に必要な就職活動を自分達の手で作らなければならないような機会にもしたいと考えています。さらに、このプロジェクトでは、各法人が3・4年生を対象とした目先の人材獲得を目指すのではなく、数年先を見据えた1・2年生も含めた人材育成や、福祉への理解を深めるための活動にできればとも考えている為、幅の広い学年が参加できるようになっています。

具体的活動として、学生達は、福祉ライブカフェを開催する、という大きなテーマに向かって、何回も会議を重ねていくわけですが、その会議は、委員が所属する福祉施設等で開催されます。そうすることで、学生達には、会議をすると同時に福祉のフィールドを体験し、福祉についての理解を深める機会を提供していくことにもなります。こうした機会を重ねていくことは、学生達がイベントや研修を企画・運営することができる力の獲得はもとより、福祉業界や様々な人との豊かな繋がりを生み出すことにもなると考えています。



千葉商科大学での「福祉ライブカフェミニ」の様子

現在、この学生プロジェクトには、千葉商科大学人間社会学部勅使河原研究室や千葉工業大学創造工学部倉斗研究室などを中心とした学生達が、実際にイベントの企画から運営まで携わって来ています。千葉商科大学の学生達は、福祉ライブカフェ本番では、司会や総合案内を担ったり、大学内では「福祉ライブカフェミニ」という学内合同就職説明

会を開催しました。また、千葉工業大学の学生達は、『ロックに生きるぜ』という印象的なキーワードを掲げた福祉ライブカフェのイベントチラシを作成し、福祉のプロモーションについて様々なアイデアを投げかけてくれました。今年度も、福祉ライブカフェ本番に向けた学生プロジェクトチームが既に動き出しています。若者達が、私達にどんな刺激を与えてくれるのか、今後の展開が楽しみです。

## ② キャラバン隊

キャラバン隊は、大学等における授業やゼミに当委員会所属法人の職員が伺い、各法人での取り組みについて学生達に講義等をさせていただく活動です。普段から積み重ねてきた各法人の活動を、ホームページや求人サイト等で知るだけでなく、直接学生達へ伝える機会を持つことで、福祉の現場が持つ魅力や面白みを知ってもらいたいと考えています。また、「直接」伝えるということも、学生達に会えるということでもあります。大切なことは、福祉とはなんなのか、どういう取り組みをしているのか、というところを伝えるのと同時に、福祉の業界ではどんな人が、どんなことを感じ考えながら働いているのか、ということを知ってもらいたい。また、「直接」伝えるには、教材やインターネット上では伝わらない職員としての働きがいや仕事の魅力、または難しさや苦しさ、さらにはプライベートな部分も含めて、彼らの人生のロールモデルとまではなれなくとも、参考事例の一つに加えてもらえたらと願っています。講義を聞いた学生が、数年前に福祉の仕事に就いてくれたらとても嬉しいことですし、例えば福祉の仕事に就かなかったとしても、「障害を持つという人に出会ったなら、あの時に話を聞いたように接してみたいな。」とか「自分が暮らす地域でもなにか福祉に関わることができないか

な。」なんて発想をしてくれる人になってもらえたら、福祉の裾野を広げるという当委員会の目標へと繋がるのではないのでしょうか。

因みに、このキャラバン隊も、講義対象者を大学3・4年生に限定したものではありません。就職活動を始める前の1・2年生にもこうした活動を通して、福祉について知ってもらい、将来の就職活動へと役立ててもらいたいと思うとともに、学生生活を送るなかでこうした福祉に関する知識がなにか生活の中に生きてくればと願っています。

昨年度は、キャラバン隊として2つの大学へ訪問していますが、今年度はさらに数を増やしていけるように調整中です。より多くの学生達へ自分達の取り組みや思いを知ってもらえるよう励んでいきたいと思えます。

## ③ 人事・採用担当者向け研修

人事・採用担当者向け研修は、前述のような取り組みを繰り返すことで、いざ学生達が合同就職説明会に参加した際、法人の説明をする採用担当職員が、しっかりと福祉が持つ魅力について伝えられるようになることを目指して開催しているものです。年1回開催するこの研修は、福祉業界における採用活動のトップランナーを講師として迎え、採用活動における知識や技術を習得するとともに、そもそも自分達の仕事はどういうやりがいや面白みを持っているものなのか、「誰に、いつ、どうやって」伝えるべきなのかを考える良い機会にもなっています。ある年の研修では、説明を聞く側となる学生達にも参加してもらい、採用担当職員のプレゼンを見聞きし、学生達にそれを評価してもらおうという機会を設けたこともありました。当委員会としても、全く初めての取り組みでしたが、学生達の素直な意見や感想は、私達にとつて非常に刺激的で学びとなるものばかりでした。前

述したように、「学生達に伝えるものだからこそ、学生達自身も一緒に創りあげていく」という当委員会が目指している姿を体現した一つの挑戦だったともいえる研修でした。

最後に、これからの福祉を担う人材の確保に向けて、当委員会の道のりは、まだまだ長く険しいものではありませんが、こうした活動を通して、一人でも多くの学生が福祉というものを知り、その魅力に気づいてもらえるように励んでいきたいと思っています。若者達に「ロックに生きる」福祉職員達の力強い姿が届くことを願って。

「Fukushi Livecafe」のロゴと「ロックに生きるぜ」のキャッチフレーズが目を引くデザインです。右側には「福祉の強さ」と「福祉の弱さ」に関する説明文が記載されています。

「福祉ライブカフェ」のイベントポスター。2020年3月24日(木)の開催日時と「ロックに生きるぜ」のテーマが強調されています。

「福祉ライブカフェ」のイベントチラシ。開催日時、会場情報、参加費などが詳細に記載されています。

千葉工業大学の学生達で作った「福祉ライブカフェ」のチラシやプロモーション作品

# つながる相談員 相談支援部会オンライン研修会の報告

去る令和3年11月15日に相談支援部会研修会が開催されました。今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点により初めての試みとしてオンライン開催とし、当日は45名の参加がありました。内容は二部構成で、前半は「加算について学ぼう」と題し、社会福祉法人佐啓会の林博樹氏（ふる里学舎あすみが丘施設長）、伊東伸之輔氏（ふる里学舎蔵波デイセンター施設長）から講義があり、後半は「相談支援の存在意義ってなんだろう？」と題し、交流・グループ討議を行いました。また、情報提供として大森匠氏（指定相談支援事業所ほろきぼし…当部会副部会長で千葉県相談支援事業連絡協議会会長）から「千葉県相談支援事業連絡協議会（CSK）」の活動や研修情報の説明がありました。

講義では、令和3年4月の報酬改定の中身を振り返りながら、「基本単価の増額」「新設・拡充された加算と取得の考え方」が説明され、合わせて用意された3つの事例を通して加算取得を参加者が考え、発表する演習形式も取り入れられました。講師からは加算の組み合わせの留意点や記録・報告書様式の事務負担軽減、また独自の加算チェック表の説明があり、参加者が自分の職場に持ち帰り実務に活かせるアイデアが盛り込まれていました。日々の支援の中で加算対象となる業務に当たっていても書類作成の時間が取れない等の理由から請求に至らない事を経験するかと思います。まずは加算の確実な取得を進めながら、また事業所の相談員人数の増員を図り、事業としての相談支援の安定化を図る事は相談支援の質を高め、巡りめぐってご利用者様への幸せにつながると思われます。



交流・グループ討議では、事前から期待されるソーシャルワークの機能を一読頂きながら、参加者は当日7グループ（二グループ6、7名程）に分かれ進められました。初対面だったり、経験年数や職場環境に違いはありますが、日々の支援の中で感じる「やりがい」「困難に思うこと」をお一人お一人が述べつつ、今回のテーマとした「相談支援

の存在意義」を深掘り、再確認する機会となりました。各グループのファシリテーターが代表して、「ご利用者様への心の寄り添い」「思いやニーズの吸い上げ」「ご利用者様と制度等のつなぎ役・調整役」「相談員が居てくれて良かったと思ってもらえる存在」等が発表されました。最後に進行役の交友研修委員がまとめを行いました。日々寄せられる相談事に対して真摯に取り組まれている参加者が多い事やそのご苦労を感じます。その解決の難しさに参加者が孤独に陥らぬよう横のつながりを持ち、新たな発想や支援のレベルアップ、そして地域づくりの実践へとつながる一助となる事を願うばかりです。

報告者：相談支援部会運営委員 大瀧 満  
（社会福祉法人かずさ萬燈会 木更津市指定相談支援事業所ほどと）

## 第48回「手をつなぐ作品展」を終えて

例年であれば2月、3月に開催される「手をつなぐ作品展」ですが、今年は新型コロナウイルス感染症の為、夏に前年度分である「第48回手をつなぐ作品展」をそれぞれの地区で開催しています。緊急事態宣言が発令され一時期、開催が危ぶまれましたが、どの地区も無事終了することに担当者として嬉しく思います。

例年に比べ売上はどの地区も減少しましたが、開催目的である知的障害者への理解と関心を来場されたお客様に持つて頂くことができました。これも毎年、会場を提供して頂けるイオン様、ユニモ様をはじめ各施設関係者の協力のおかげだと思っております。本当にありがとうございました。



第48回 開催報告	
<b>北部地区</b>	開催日/令和3年9月27日(月)~29日(水) 会場/イオンモール八千代緑が丘 売上/約76万円
<b>中部地区</b>	開催日/令和3年7月30日(金)~8月1日(日) 会場/ユニモちはら台 売上/約77万円
<b>南部地区</b>	開催日/令和3年8月20日(金)~22日(日) 会場/イオンモール富津 売上/約61万円

第49回 開催日程	
<b>北部地区</b>	開催日/令和4年1月24日(月)~26日(水) 会場/イオンモール八千代緑が丘
<b>中部地区</b>	開催日/令和4年2月18日(金)~20日(日) 会場/ユニモちはら台
<b>南部地区</b>	開催日/令和4年2月25日(金)~27日(日) 会場/イオンモール富津

新事業所紹介

NPO法人 晃智会

ROHAS

送迎付き生活介護通所施設  
ROHASです

保護者の皆様、関係機関・団体の方々には、日頃より事業運営にご協力いただき感謝申し上げます。

当法人では、障害者総合支援法に基づいた送迎付き生活介護通所施設「ROHAS」ロハスを運営しております。

ROHASとは rehabilitation of health and sustainability の頭文字からきており「健康で継続可能な、またこれを重視して社会復帰（参加）していく」という意味です。

当法人は、医療関係者を中心に設立された法人ということもあり、身体障害や高次脳機能障害、発達障害の方などそれぞれ障害のある利用者さんへ理学療法



ロハス外観

士・作業療法士と連携を取り専門的になりハビリテーションの提供や看護師による医療的ケアを実施していることが大きな特徴となっております。

また、生活介護では、送迎・入浴・食事等、日常生活でのお困りの



イベント外出

部分を介護職が支援しています。その他、外出・施設イベント・買い物・公共交通機関体験など社会経験の場として提供しております。

このように利用者様とご家族がより生き生きとした生活が送れるようにサポートし自宅での介護不足、社会体験不足、病院リハビリでは補えない部分のカバーができる施設となっております。

ROHASはこれからも「共に生きる」社会障害を持つ方とその家族、市民が健康で生き生きと暮らす「みんなが幸せ」になる社会を目指す為障害福祉サービスの提供を目指していきます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

生活支援員 佐藤 駿

株式会社前保レジデンス  
障害者グループホーム  
みんなのレジデンス

浜野駅から徒歩3分！五井駅から徒歩7分！  
生活に便利なグループホームです

グループホームみんなのレジデンスは、令和2年2月と5月にオープンしました。浜野駅近くのホームは女性棟、五井駅近くは男性棟です。それぞれ4名定員のこじんまりとした家庭的な



五井駅近くの男性棟

ホームです。建物も戸建の一般住宅をそのまま活用しており、ご自宅でも暮らしているようにリラックスできるような雰囲気づくりを心がけています。



浜野駅近くの女性棟

どちらも町中にあるので、コンビニや大型スーパーも近くにあります。買い物にもとても便利です。また病院なども徒歩圏内です。日中活動に行くのにも徒歩圏内にありますので、活動したい方にはとても向いています。

特に浜野の女性棟は駅から至近距離なので一般就労への電車通勤も向いています。五井の男性棟ですと駅近くに就労支援事業所がたくさんあるため、就労支援を利用したい人には持つてこいの場所です。

どちらも夜勤者を配置、手づくりの食事を提供しております。精神科看護師、精神保健福祉士、介護福祉士などの専門スタッフを配置して、利用者一人ひとりと丁寧に関わり、健康と安心を守ることを大事に運営しています。空室あり、お問い合わせ見学歓迎です。ご利用をお待ちしております。

施設長 前保 優子

支援スタッフ  
から見た!

## わが施設の自慢・アピールポイント③7

平成20年度から36回にわたり93の“プチ自慢”をご紹介してきましたこのコーナー。今回は2つの“プチ自慢”です!

### 千葉ブロック…社会福祉法人…オリーブの樹…オリーブ轟

#### 協働！そして働き方いろいろ……

千葉市稲毛区轟町では同一敷地内に高齢・児童・障害の3つの事業所があります。「社会福祉法人煌徳会とどろき一倫荘」（特養）、「社会福祉法人小ばと会なでしこ保育園」とは一緒に地域貢献への取組みを行っています。地域交流会「オクトーバーフェスト」を開催し、利用者交流「ウエーブハンズ」では「千葉市100年ダンス」に挑戦しています。

日常活動では3つのサービスがあり、班ごとに日々仕事に励んでいます。

**就労継続支援A型**：3つの班が、がっつり働いています。ランチ班では朝早くからお昼の食事を中心に調理の仕事をしています。1日の製造は200～300食です。クッキー班では生地作りから包装まですべて手作業で20種類以上のクッキーを製造しています。多いときは1日800袋頑張ります。オリゾン（オリーブとアマゾンの造語）班ではオンラインショップや企業等からの受注を梱包発送しています。対面販売が激減し、戦略・実働共に重要な仕事となりました。千葉市民会館1階の喫茶室「秋桜」も担当しています。

**就労継続支援B型**：わくワーク班ではお掃除を中心に施設外の作業に出ています。事業所内では農作業や軽作業、印刷封入



オリーブ轟と販売風景



クッキー製造風景

など自分のペースで仕事をしています。お掃除のスキルも上がり、オリーブ轟の館内はいつもピカピカです。

**生活介護**：ひよこり班の仕事は、園芸、地域清掃、軽作業、古本販売などの他、創作作品や屋台の制作販売も始めました。自分らしい活動を仕事につなげると共に、有酸素運動やレクリエーションも取り入れています。

また、厨房の作業服はB型で洗濯、作業で出た段ボールを生活介護が整理処分するなど、ワークシェアしています。もちろんイベントや行事、自治会活動は班をこえてみんな一緒です。他のオリーブ製品も含めクッキー、アイス、手作り品の販売もしています。ぜひいらしてください!

施設長 武井 美穂

### 東葛南ブロック…社会福祉法人 心聖会…作山更生園

#### ～新たな活動場の増設～

社会福祉法人心聖会作山更生園は、法人2か所目の入所施設として平成11年6月に事業を開始しました。作山更生園は小高い丘の上であり、四季折々の自然豊かな風景と、遠くに北総線の電車が走る景色を見渡せます。主に知的に障害をお持ちの方の生活拠点として、施設入所支援（定員30名）、生活介護（定員40名）、短期入所（定員6名）の事業を行い、生活の土台である衣・食・住全般の支援を行っています。また、日中活動や余暇活動を通して生きがいのある生活が送れるように支援に取り組んでいます。

日中活動では、生産活動（編み物・ハーバリウムボールペン等）、創作活動（壁画等）、機能訓練（ストレッチ・軽運動等）、音楽活動（リトミック・カラオケ）を4班に分けて行っています。ご利用者個々の障害特性の理解を第一に、得意な事や好きなことに目を向け、強みを生かした支援を意識して活動に取り組んでいます。

今年度から日中活動を行う場所として新たに作業棟を増



作山更生園外観



作業棟の様子

設し、1階は主に通所のご利用者が創作活動を行う場所として、2階は雨天時に機能訓練や軽運動を行える場所として使用しています。また、今年8月に施設内で起きた新型コロナウイルスの集団感染発生時には、隔離棟として非常時も有効活用することができました。

日々の生活の中で、ご利用者の安心安全な暮らしはもちろんのこと、一人ひとりに寄り添い、心の声を聞き、笑顔も多く引き出すことができる質の高い支援が提供できるよう、職員一同精進して参ります。

生活支援課長 筒井 利光

# 千葉知協 トピックス

## CIDAA夏季陸上競技教室

令和3年9月20日(月・敬老の日)、本協会が後援し、千葉県知的障害者陸上競技協会が主催したCIDAA夏季陸上競技教室、兼ねまして2021第3回ID(知的障害)陸上競技記録会が千葉県総合スポーツセンター陸上競技場で行われました。



ドリル(走りの基本を身につけるためのトレーニング)に励む参加者たち

このイベントは「東京2020大会を契機とした障害者スポーツ・芸術活動の振興と共に楽しむ!パラスポの『輪』プロジェクト」として行われました。このプロジェクトの主旨及び目的は「東京2020大会を通して、一人ひとりが互いに認め合えるインクルーシブな社会を創造することが期待されています。本県でも8競技が開催される東京2020大会を契機に、県民や企業、大学等の障害者スポーツ・芸術への興味関心が高まり、それぞれの連携した取組が活性化されています。この機会を捉え、大会後を見据えて、関係



男子100m

機関の「輪」をさらに広げ、「オールちば」で障害者スポーツ・芸術の振興を図る体制をつくり、無形のレガシーとして共生社会の実現を目指します。」とされています。このプロジェクトには十一の事業が掲げられ、その

のうちの一つ「障害者スポーツ競技団体支援事業」として千葉県の助成を受けて行われました。この事業はパラスポーツの活性化を図るため、県内のパラ競技団体の体制整備や体験会等の開催に係る取組に対して助成を行い、有力選手の調査(発掘)・育成をする」ことを目的としています。

主催者である千葉県知的障害者陸上競技協会は感染対策を万全に整え、安全で安心なイベントとなるよう腐心していました。東京パラリンピック閉幕直後でその興奮が冷めやらぬ時期ということもあって参加者たちは次のパラリンピックを目標として意欲満々で取り組んでいました。当日参加者たちは、午前中の陸上教室では、全国障害者スポーツ大会(いわゆるパラ国体)陸上競技の千葉県代表チームのコーチたちによる指導で専門的な技術の習得で汗を流しました。お昼前からは記録会で習得した技術を生かして自己の記録更新に挑戦していました。天候にも恵まれ、好記録が続出する一日となりました。

スポーツ文化委員会 藤崎 明

## 千葉県知的障害者陸上競技協会予定

令和4年1月23日(日)

第25回千葉ゆうあいピック駅伝

千葉県総合スポーツセンター陸上競技場

令和4年2月27日(日)

CIDAA冬季陸上競技教室 兼

2022年第1回ID陸上競技記録会

千葉県総合スポーツセンター陸上競技場

令和4年3月16日(水)

第14回千葉県ID陸上競技選手権大会

千葉県総合スポーツセンター陸上競技場

## 自立支援セミナー中止のお知らせ

令和4年1月29日(土)に開催を予定していた第17回自立支援セミナー2022は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点により中止することといたしましたのでお知らせいたします。

## 事務局便り

事務局長 千日 清

よいお年をと言葉交わす時期となりました。昨年末は少なかつたことと記憶します。利用者の満足そうな表情を見て私たちは喜ぶ。やりがいと達成感を得ることのできる仕事を続けていきたい。よいお年をお迎えください。

## 編集後記

くすのき苑 秋山 直樹

柔軟な、既成概念に囚われない考え方が必要と強く感じた1年でした。体は硬いですが、頭と心は柔らかく新しい年を迎えよう。